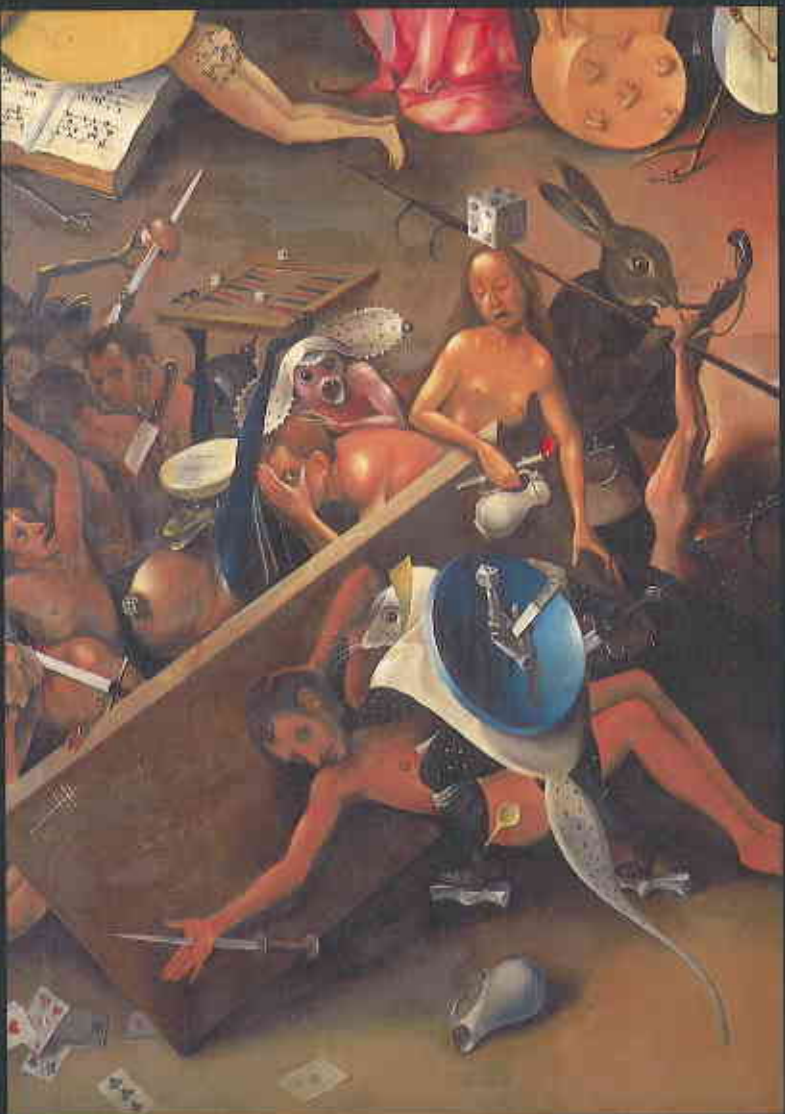


駒場

1996

東京大学大学院総合文化研究科
東京大学教養学部



KOMABA 1996 SUPPLEMENT
GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND SCIENCES
THE UNIVERSITY OF TOKYO, KOMABA

表紙について

ヒエロニムス・ボッシュ

〈快樂の園〉部分

藤田吉香氏による模写

1516年没のヒエロニムス・ボッシュ——つまりペーター・ブリュ
ーゲルが生まれる少し前まで活躍していたこの画家——の代表作
「快樂の園」は、マドリッドのプラド美術館に陳列されていて、いま
でも観客に当惑と奇妙な衝撃をあたえる作品である。というのも、
画家は背後で、劫初から人間たちは道徳的に墮落した救いのない存
在であったのか、あるいは、一群の研究者たちが主張することく、
当時の異端派に何らかのかたちで共鳴した画家がカトリックの教え
の彼方の裸の人間のありように、墮落した現状を未来に向け切り開
く新しい方向を見出していたのか、いずれにせよ、諸説紛々として
いて、この絵がしめす「意味」が明瞭でないからである。1929年生
まれの画家藤田吉香が、スペイン留学中に模写したものひとつが、
この「快樂の園」である。先日物故した仏文学者寺田透が館長をし
ていた頃、駒場の美術博物館に入った。そのときいっしょに購入さ
れた、やはり藤田の模写作品フラ・アンジェリコの「受胎告知」の
部分は、すでに「駒場1992」の表紙を飾っている。留学中藤田は「快
楽の園」の模写を二度行っており、もうひとつの方は、彼の故郷の
福岡市美術館に収蔵されていて、それについて説明する文章で藤田
は、「画面を4分して後で組み合わせた。油彩で描いたが、私の感触
はテンペラの方が近いように思えた。華麗な画面を感じるが、描い
てみると予想以上に地味な、彩度の低い色の組み合わせである」と
書いている。さらに、「視覚的な再現には技術的な修練が、原作のも
つ魅力の再現には鑑賞眼の高さを伴わなければならない」とも書い
ている彼は、ここで模写の作業に何が必要なことか説くだけでなく、
その後の彼自身の仕事にたいする態度をも説明しているようである。

GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND SCIENCES
THE UNIVERSITY OF TOKYO, KOMABA

[駒場]1996
SUPPLEMENT

GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND SCIENCES
THE UNIVERSITY OF TOKYO, KOMABA

[駒場]1996
SUPPLEMENT



東京大学大学院総合文化研究科
東京大学教養学部

駒場 1996

SUPPLEMENT

東京大学大学院
総合文化研究科
東京大学教養学部

●目次

まえがき—————7

I 総合文化研究科・教養学部はどのような組織か

- 1 大学院重点化計画の完了—————10
- 2 共通技術室—————16
- 3 キャンパス整備計画—————17

II 駒場キャンパスはどのような点でユニークか

- 1 国際性—————20
 - 1. AIKOMプログラム—————20
 - 2. 外国人留学生の現状—————22
- 2 学術性—————24
 - 1. 後期課程の学科の再編—————24
 - 2. 教官組織の再編—————27
- 3 キャンパス外とのコミュニケーション—————30
 - SCS運営委員会—————30

III 教養学部では、誰がどのように研究教育を行っているのか

- 専任教官—————36
- 客員教官—————49

IV 駒場キャンパスで何を、どのように学ぶか

- 1 大学生活を始めるにあたって—————56
- 2 大学は、高校までと何が異なるか—————60
- 3 大学生の読書と図書館とは—————70
- 4 試験対策・進学先をきめるには—————71
- 5 授業の受け方、実験実習、基礎演習とレポートの書き方では何が大事か—————73
- 6 外国語の修得は習うより慣れるか—————76
- 7 情報処理および基礎講義には学び方がある—————79
- 8 困ったときどうするか—————83

付属資料

- 平成8年度志願、合格、入学状況—————86
- 平成9年度進学内定者数—————87
- 定員の推移—————88
- 平成8年度クラス編成表(1年2年)—————89
- 外国人研究生—————91
- 平成8年度から9年度にかけての役職者—————92